

科目名		臨床医学各論 1							年度	2025	
英語科目名		Special Clinical Medicine 1							学期	後期	
学科・学年		鍼灸科 1 年次		必／選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員		大下裕之		教員の実務経験		有	実務経験の職種		鍼灸師		
【科目の目的】											
「消化器疾患」「肝・胆・膵疾患」「循環器疾患」についての知識を理解することを目的とする。各疾患について、性差や好発年齢などの疫学、疾患を引き起こす原因、臨床症状を学び、単純X線やCT検査などの画像診断や血液所見などの診察所見、薬物療法や外科的手術などの治療法を学び、予後などを推察できるようになることを目標とする。											
【科目の概要】											
臨床活動を行ううえで必要な知識である「疾患」に関する知識を、現代医学的な観点から学びます。											
【到達目標】											
A. 消化器疾患について各疾患の病態に基づき症状や検査所見が理解できるようになる。 B. 肝臓の機能や肝炎ウイルスの特徴を理解したうえで、各肝臓疾患の病態に基づき症状や検査所見が理解できるようになる。 C. 各胆嚢疾患や胆道系の障害について病態に基づき症状や検査所見が理解できるようになる。 D. 膵内・外分泌腺組織の機能を理解したうえで、各膵臓疾患の病態に基づき症状や検査所見が理解できるようになる。 E. 血液疾患について病態に基づき症状や検査所見が理解できるようになる。											
【授業の注意点】											
授業日数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。講義時間に無連絡で20分以上遅れた場合、受講はできるが出席の扱いをしない。明確な理由が無い早退は出席したとは認めない場合がある。課題は、本科の規則に従った形式で提出する。特定の指示が有る場合を除いて、手書きでの作成を原則とする。											
評価基準＝ルーブリック											
ルーブリック 評価		レベル5 優れている		レベル4 よい		レベル3 ふつう		レベル2 あと少し		レベル1 要努力	
到達目標 A		病態をもとに症状や所見の発現機序を詳しく説明することが出来る		ある程度の病態理解が出来、症状や所見を挙げることができる。		病態理解は出来ないが、参考資料を見なくても症状や所見を挙げることができる。		病態理解はできないが、参考資料をもとに症状や所見を挙げることができる。		病態を理解することができず、症状や所見を挙げることもしない。	
到達目標 B		病態をもとに症状や所見の発現機序を詳しく説明することが出来る		ある程度の病態理解が出来、症状や所見を挙げることができる。		病態理解は出来ないが、参考資料を見なくても症状や所見を挙げることができる。		病態理解はできないが、参考資料をもとに症状や所見を挙げることができる。		病態を理解することができず、症状や所見を挙げることもしない。	
到達目標 C		病態をもとに症状や所見の発現機序を詳しく説明することが出来る		ある程度の病態理解が出来、症状や所見を挙げることができる。		病態理解は出来ないが、参考資料を見なくても症状や所見を挙げることができる。		病態理解はできないが、参考資料をもとに症状や所見を挙げることができる。		病態を理解することができず、症状や所見を挙げることもしない。	
到達目標 D		病態をもとに症状や所見の発現機序を詳しく説明することが出来る		ある程度の病態理解が出来、症状や所見を挙げることができる。		病態理解は出来ないが、参考資料を見なくても症状や所見を挙げることができる。		病態理解はできないが、参考資料をもとに症状や所見を挙げることができる。		病態を理解することができず、症状や所見を挙げることもしない。	
到達目標 E		病態をもとに症状や所見の発現機序を詳しく説明することが出来る		ある程度の病態理解が出来、症状や所見を挙げることができる。		病態理解は出来ないが、参考資料を見なくても症状や所見を挙げることができる。		病態理解はできないが、参考資料をもとに症状や所見を挙げることができる。		病態を理解することができず、症状や所見を挙げることもしない。	
【教科書】											
臨床医学各論（医歯薬出版社）											
【参考資料】											
【成績の評価方法・評価基準】											
中間試験・期末試験で評価する											
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。											

備考等